

国際保全パートナーズ

UAPACAA

Unified Action for Promoting Animal Conservation in Asia and Africa

459-1-201 Nagae, Hayama-machi, Miura-gun, Kanagawa 240-0113, Japan

Phone: +81(70)4486-6609

2021年度上半期(2021年8月~2022年1月)事業報告

法人の名称 NPO法人UAPACAA国際保全パートナーズ

<活動概要の要点>

- ・一般財団法人日本国際協力システム JICS NGO 支援助成の、基盤強化に採択された。2022年度1年間のインターン(アシスタント)人件費補助に100万円が支給され、クラウドファンディングなどに対する広報・資金調達力を強化する。
- ・2020年度末(2021年6月)から、ブータン・プロジェクトの資金調達のため、自然保護活動の広報経験者に委託して、3カ月間のドネーションアピールを行った。現地活動費200万円を目標としたが、認知の広がりを作ることに苦勞し、最終的な金額は\$3,000(34万円強)に留まった。
- ・12月からは、カメルーン・ロベケ国立公園支援のドネーションアピールを開始。3月末まで3か月間実施の予定。年末は2021年所得税免税措置を謳って寄附を募り約20万円の寄附が集まった。
- ・2021年9月20日にオンライン(Google Meet)理事会を開催し、理事6人全員の出席を得て成立。2020年度(2020年8月~2021年7月)事業報告と決算に承認を得て、通常総会に上程した。
- ・2021年10月27日に任期満了を迎える役員の改選のため、理事会前に正会員へ候補推薦の依頼を行い現役員に重任への内諾を得た。新候補は挙がらず、理事6人監事1人の重任を総会に付議した。
- ・理事会の表決に従いみなし通常総会を開催し、正会員15人全員の賛成を得て、2020年度事業報告と決算報告、および新役員(理事6人監事1人)が承認された(2021年9月25日)。
- ・通常総会にて新役員が選出されたのち、書面による代表理事の互選を行い岡安が選出された(9月27日)。2年の任期で法人の代表権を持つ理事として、法務局に変更登記を行った。

<事業活動方針にかかる報告(2021年8月~2022年1月分)>

カメルーン、ブータン、およびコンゴ民主共和国の連携先と自然保護プロジェクトを推進する。

「2 事業内容」に沿って、以下に報告する。

① 自然保護におけるポスト・コロナ対策事業

- ・2020年度に起案した、カメルーンでCOVID19対策に活用されている伝統薬用植物とその処方、より汎用性のある「生薬事典にまとめるプロジェクト」の内容を、カメルーンチームリーダーのフォンゾッシ博士と検討した。
 - 予算規模が、薬用植物の抗ウイルス性などの生化学的検証等を精密に行うには小さく、選べる植物種数を絞る必要がある。この絞り込みのクライテリアが今後のキーとなる。
 - 武田漢方医の薬用植物検査法の提案は、カメルーンの検査体制の脆弱性、患者の伝統医薬利用方法がトラッキング不可能なため、直接、反映することが難しいことが判明した。
 - 他方、蜂蜜を加工して作るプロポリスにコロナ防止効果が高いという報告があり、蜂蜜の元

植物の成分と薬効を調べる方向で、絞り込みを行う方針を立てることができた。

- ・2021年2月末に応募した「モンベルクラブ・ファン ド チャレンジ支援プログラム」は、活動費助成は不採択だったが、フィールドワーク用ギアの無償提供をいただくことになった。フォンゾッソ博士の来日が実現したので、12月末にモンベルから受け取った機材を、1月に引き渡し、カメルーンへ持参した。生薬候補の薬用植物採集に活用される。

② アフリカ熱帯雨林の保全と野生動物保護支援に関する事業

ア カメルーン共和国南東部州の大型類人猿と生物多様性の保全活動

1. ロベケ国立公園の大型類人猿エコツーリズム振興支援
2. ロベケ国立公園生物多様性モニタリング

- ・エコツーリズム振興ではコロナ禍で世界的な観光業の中断が継続し、今でも先行きが見通せない。他方でカメルーン政府はエコツーリズムの再開（振興）に意欲を示しており、ロベケ国立公園の次期5年計画（コロナ禍で策定遅延）にゴリラ・エコツアー展開を組み込むことが期待されている。
- ・ゴリラの人づけについては、Pont Casse 地区のトランゼクトの観察実態をまとめ、現場担当者与人づけの度合いをコントロールする必要がある、技術支援を行ってきた岡安の渡航が望まれる。
- ・国立公園内の定点モニタリングは、コミュニティの若者を採用しているおかげで、観察が継続している。ただし、UAPACAA からの資金支援がないので、規模が縮小している。
- ・UAPACAA からは、2020年5月に予定されたクラウドファンディング支援者の現地訪問が、コロナ禍で依然として延期を余儀なくされ、期待された大口寄付や取材協力費収入も実現していない。

3. 国際武装集団によるゾウ密猟対策への支援

- ・2022年1月に、ロベケ国立公園プロジェクトのドネーションアピールのため、各地のモンベルサロンを借りての巡回ミニ講演会を企画したが、オミクロン株の急拡大で延期を余儀なくされた。

イ コンゴ民主共和国（DRC）マイ・ンドンベ州ボロボ郡におけるボノボの保護活動

1. ボノボ生息域における生物多様性保全・再生にかかる研究と実践
 2. ボノボ生息域に居住するコミュニティの生活向上支援（AIN 味の素財団助成金申請）
- ・2022年度地球環境基金の「つづける助成」（年間300万円で2年計画）に「コンゴ民主共和国における新型コロナウイルス感染症の観光業と Mbali コミュニティへの影響評価と復興—ボノボ・エコツーリズム振興を通じて、絶滅危惧種の保護と持続可能な農村開発の両立を実現する」で申請。
 - ・Mbali の地元 NPO 法人 MMT は、日本でのパーチャル・エコツアー試行の可能性にも興味を示しており、4月から入局予定のアシスタントとともに、実現可能性を検討したい。
 - ・2. の活動について、AIN 味の素財団助成金では、ガーナにおける類似のグラスカッター飼養プロジェクトが採択されており、今期は採択可能性が低いと考えられ申請を見送った。

② 南アジアの亜熱帯林保全と野生動物保護支援に関する事業

ア ブータン南部「国境を越えたマナス保全地域（TraMCA）」の生物多様性保全事業（特にアジアゾウ保護）と淡水域保全事業

1. TraMCA ランドスケープにおける人とアジアゾウの衝突回避に向けた支援
2. TraMCA ランドスケープの淡水系保全支援

- ・ハイライトに挙げたドネーションアピールのために、WWF ブータンの担当者と協働し、TraMCAの生物多様性保全を中心に活動計画を組み立てなおした。
- ・ドネーションアピールで調達した\$3,000は、ロイヤル・マナス国立公園周辺の Gelephu Gewog における、獣害対策（Rapid Response Team 設立と研修）費用に充てるため、現地へ寄付送金した。
- ・ドネーションアピールの一環として、体験プラットフォーム AiNi 主催の子供向けオンライン体験プログラムに登壇し、まとまった寄付が得られた。資金調達プラットフォームとして活用を検討する。
- ・同じく 9 月～10 月にタイガーモブ株式会社と共催した、4 日間の「WILDLIFE ACTION 2」プログラムが好評で、30 名以上の参加、寄付と収益（折半）で 30 万円近くの活動資金が得られた。
- ・「WILDLIFE ACTION 2」の発展系として、2022 年寅年をフックに「トラ保護研修年間プログラム（年間パスポート）」をタイガーモブに提案した。最終的に共催とはならなかったが、タイガーモブが年間を通じた寄付調達スキームとして、「行くぜ！トラフェス 2022」を立ち上げた。

アフリカやアジアの生物多様性保全に関する情報発信を行い、国際保全活動の普及啓発に貢献する。

- ・自前のドネーションアピールのための情報発信、特に SNS を Facebook とツイッターに加えて Instagram と LINE を開始したが、コンテンツ準備に労力を割かれ発信頻度が不十分になっている。
- ・会員専用メルマガの発行回数が、上記の公開コンテンツ準備に押されて減っている。
- ・情報発信の頻度や内容、利用するツールについて、資金調達の効率（自前のドネーションアピールか、クラウドファンディングプラットフォームの利用か、など）も踏まえ、再検討する必要がある。
- ・巡回ミニ講演会など、リアル開催のイベントの集客や個人寄附募集企画で、知名度向上と資金調達が強化できるかの検証を進めているが、オミクロン株による感染拡大の影響で難航が予想される。

<その他の事業>

① 書籍の出版・販売

収益事業として継続するためには、積極的な営業等で販売数を伸ばし利益幅を広げる必要がある。しかし、人手が不足する当法人にとっては大きな負担となり、しばらく休止することとした。

※ 上半期予算進捗（2021 年 8 月～2022 年 1 月）に関して、中間決算報告書を添付する。

以上

国際保全パートナーズ

UAPACAA

Unified Action for Promoting Animal Conservation in Asia and Africa

459-1-201 Nagae, Hayama-machi, Miura-gun, Kanagawa 240-0113, Japan

Phone: +81(70)4486-6609

2021年度下半期(2022年2月~2022年7月)事業報告

法人の名称 NPO法人UAPACAA国際保全パートナーズ

<活動概要の要点>

- ・独立行政法人環境再生保全機構の地球環境基金「つづける助成」に、DRC プロジェクトが採択され(260万円/22年度)、現地のMMTとともに2年間、ボノボ・エコツアー復興の道筋をつける。
- ・12月開始のロベケ支援ドネーションアピールは、4月2日の大阪ミニ講演会で締め、564,720円の寄附が集まった。400万円には大幅未達のため、追加資金がまとまった金額になった段階で送金する。
- ・7月14日にオンライン(Zoom)理事会を開催。理事6人の出席(うち書面表決3人)を得て成立。2022年度(2022年8月~2023年7月)事業計画と予算に承認を得て、臨時総会に上程した。
- ・地球環境基金助成プロジェクトのため、MMTと活動協力覚書を作成し、理事会で承認を得た。
- ・理事会の表決に従いみなし臨時総会を開催し、正会員17人全員の賛成を得て、2022年度事業計画と予算が承認された(7月27日)。

<事業活動方針にかかる下半期分報告(2022年2月~2022年7月分)>

カメルーン、ブータン、およびコンゴ民主共和国の連携先と自然保護プロジェクトを推進する。

「2 事業内容」に沿って、以下に報告する。

① 自然保護におけるポスト・コロナ対策事業

- ・カメルーン伝統薬用植物の処方汎用性のある「生薬事典にまとめるプロジェクト」は、ドゥアラ大学との研究協力協定に、半年がかりでようやく承認が下りて署名を交わした(5月10日)。
- ・これに伴い、付属書の研究協定LOA(Letter of Agreement)の内容をアップデートし、モンベル・チャレンジ支援の機材提供も加筆して5月17日に署名。第1回送金を行い活動がスタートした。
 - ▶ 上期報告に記載した各地のプロポリスの成分分析により、質の地域差の有無と実態を把握する。
 - ▶ 他方、伝統薬用植物リストからも絞り込みと薬効分析を行い、有力候補の5種から創薬の可能性を探る当初の活動もすべきというカメルーン・チームの要望で、分析は2本立てで進める。
 - ▶ 第1段階の生化学的・植物科学的分析の完了段階で、岡安のカメルーン渡航期間(8月~9月)中にオンライン検討会を開催する(クラウドファンディングの高額寄附者向けギフト)。

② アフリカ熱帯雨林の保全と野生動物保護支援に関する事業

ア カメルーン共和国南東部州の大型類人猿と生物多様性の保全活動

1. ロベケ国立公園の大型類人猿エコツーリズム振興支援

- ・コロナ禍でアフリカ中部観光振興の先行きは不透明だが、カメルーン政府はロベケ国立公園の'20-24年中期計画(コロナ禍で策定遅延)にゴリラ・エコツアー推進計画を組み込む予定。
- ・ただしロベケのゴリラの人づけの今後は、Pont Casse地区のトランゼクトの観察実態をまとめ、現場担当者人とづけの度合いをコントロールする必要がある、岡安が8月~9月に現地渡航を予定。

2. ロベケ国立公園生物多様性モニタリング

- ・国立公園内の定点モニタリングは、サンガ多国間ランドスケープ財団資金で継続している。ただし、三井物産環境基金などの募集中止でUAPACAAは資金調達ができず、規模が縮小している。
- ・下半期から企業協働パートナー（活動費支援）との協議開始。世界環境デー（6/5）からKOMEHYOのマルミミゾウ・ショッパー売上寄附が始まり、6、7月で20万円以上のご寄附をいただいた。

3. 国際武装集団によるゾウ密猟対策への支援

- ・延期したロベケのドネーションアピールのための巡回ミニ講演会を、2/19 モンベル渋谷店、3/3 みなとみらい店、4/2 大阪 Gallery Café Kirin でハイブリッド開催。ただし参加費1,500円でも集客は苦戦しコストカバーできる収益は上がらず、資金調達策としては限界があることが判明した。

イ コンゴ民主共和国（DRC）マイ・ンドンベ州ボロボ郡におけるボノボの保護活動

1. ボノボ生息域における生物多様性保全・再生にかかる研究と実践
 2. ボノボ生息域に居住するコミュニティの生活向上支援⇒AIN助成金申請見送りで1に集中
- ・2022年度地球環境基金の「つづける助成」（上限300万円/年で2年計画）に「コンゴ民主共和国における新型コロナウイルス感染症の観光業とMwaliコミュニティへの影響評価と復興—ボノボ・エコツーリズム振興を通じて、絶滅危惧種の保護と持続可能な農村開発の両立を実現する」で採択された。
 - ・6月までの間に、地球環境基金当局やMMTとの協議で予算の縮小等、細かな事務手続きが続いた。

③ 南アジアの亜熱帯林保全と野生動物保護支援に関する事業

ア ブータン南部「国境を越えたマナス保全地域（TraMCA）」の生物多様性保全事業（特にアジアゾウ保護）と淡水域保全事業

1. TraMCA ランドスケープにおける人とアジアゾウの衝突回避に向けた支援
 2. TraMCA ランドスケープの淡水系保全支援⇒情報が助成金申請に不足し見送り
- ・昨秋、コラボした各種体験（オンライン）プラットフォームの企画が、春～夏の第2弾では集客が大幅減となり、ブータン・プロジェクトへの大型活動資金調達は今後の課題となっている。
 - ・タイガーモブの寄付調達スキーム「行くぜ！トラフェス2022」企画で、8月のGlobal Tiger Dayを皮切りに1カ月の「WILDLIFE ACTION 3」準備。WWFブータンも加わりトラ保護最前線を紹介する。

アフリカやアジアの生物多様性保全に関する情報発信を行い、国際保全活動の普及啓発に貢献する。

- ・SNSでは野生動物画像や動画配信を期待され、フォロワーを安定確保するには発信頻度が不足している。会員メルマガの開封率は高いが、同様にコンテンツや話題準備に労力を取られコストは悪い。
- ・前述のように、巡回ミニ講演会などリアル開催のイベントの集客や個人寄附募集企画は、前段として知名度向上の無料イベントの数をこなす必要があり、コロナの推移も影響して難航した。また支援者の寄附行動も、クラウドファンディング・プラットフォームに集約される傾向が見られ、さらには実行者として知名度の高い大学や企業も殺到、過当競争に陥っている可能性がある。

<その他の事業>

- ① 書籍の出版・販売は、下期も休止した。

※ 今期予算進捗（2021年8月～2022年7月）に関して、決算報告書と監査報告書を添付する。

以上